

令和5年度

定期総会資料

高山本線強化促進同盟会

次 第

1 議 事

議案第1号 令和4年度事業報告について

議案第2号 令和4年度収支決算について

議案第3号 令和5年度事業計画（案）について

議案第4号 令和5年度収支予算（案）について

2 決 議

決議（案）について

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

年 月 日	事 業 内 容
R4. 6. 30 (木) 4. 7. 3 (日) 4. 10. 30 (日) 4. 11. 1 (火)	特急「ひだ」利用実態調査の実施
4. 7. 29 (金)	幹事会を開催し、定期総会議決書、事業計画、要望活動について審議（書面決議）
4. 8. 30 (火)	定期総会を開催し、令和3年度事業報告及び同収支決算並びに令和4年度事業計画(案)及び同収支予算(案)を審議決定（書面決議）
	[決議] 1 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底すること。 2 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。 3 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し、事故防止に努めること。 4 安全で快適に利用できるようにするため、駅施設における利用者の利便性の向上・確保に取り組むとともに、鉄道施設や車両等の改善を推進すること。
5. 2. 2 (木) 5. 2. 7 (火)	東海旅客鉄道株式会社（名古屋市）及び西日本旅客鉄道株式会社金沢支社（金沢市）に対し要望を実施
R4. 4. 1 (金) ~	広報・啓発事業の実施
R5. 3. 31 (金)	

令和4年度決算書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差引増減 (△)額	摘要
1 負担金	362,000	362,000	0	18 団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	富山県・岐阜県
3 繰入金	0	0	0	
4 繰越金	1,253,713	1,253,713	0	前年度繰越金
5 雑入	100	20	△80	預金利息
計	2,215,813	2,215,733	△80	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差引増減 (△)額	摘要
1 会議費	150,000	12,286	137,714	総会、幹事会経費等
2 事業費	1,895,813	953,110	942,703	利用実態調査経費及び 広報・啓発事業経費等
3 事務費	50,000	9,242	40,758	監査、負担金請求経費等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立
6 予備費	10,000	0	10,000	
計	2,215,813	1,084,638	1,131,175	

収入合計 2,215,733円

支出合計 1,084,638円

差引残高 1,131,095円 (令和5年度へ繰越)

90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	4年度積立額 (b)	4年度末残高 (a)+(b)
700,000	100,000	800,000

監査報告書

高山本線強化促進同盟会会則第7条第5項の規定により、令和4年度決算について、監査を実施し、証拠書類、帳簿などを精査したところ、適正に執行されていたことを認めます。

令和5年5月 日

監事 下呂商工会会長 中川 正之

令和5年5月 日

監事 富山市八尾山田商工会会長 井山 泰樹

高山本線強化促進同盟会

会長 岐阜県知事 古田 肇 殿

(原本は事務局にて保管)

令和5年度事業計画（案）

1 基本目標

高山本線は、これまで我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野ー富山・金沢間が開業し、さらに今年度末には北陸新幹線の敦賀延伸、令和9年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が予定されており、これまでに以上に地域間の交流・連携が図られることが期待される。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだインバウンドも回復傾向にある。政府が訪日外国人旅行者数を令和12年に6000万人とする目標を掲げ、強力で進めている中、高山本線は沿線に多くの観光地を有し、車窓風景も美しい「観光路線」であることから、新型コロナウイルス感染症の収束後、国の官民一体型の観光需要の喚起を図る施策を展開する上で、その重要性はますます高まるものと期待される。

また、近年頻発する自然災害において、各地の鉄道は大きな打撃を受けている。高山本線においても、「平成30年7月豪雨」や「令和2年7月豪雨」により多大な被害を受けたところであり、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率が高い中、大規模災害時にも社会基盤としての機能を損なわないような設備・体制の整備をこれまで以上に促進していく必要がある。

こうした情勢を踏まえ、本同盟会は一致協力し、旅客輸送サービスの強化改善、大規模災害を視野に入れたより一層の安全確保に向けた取り組みを展開していく。

2 活動項目

- (1) 東海旅客鉄道及び西日本旅客鉄道に対する要望
- (2) 高山本線の利用者増に向けた広報・啓発活動
- (3) 全国鉄道整備促進協議会等の関係機関との連携及び情報収集活動
- (4) その他本同盟会の目的達成に必要な事項

令和5年度収支予算（案）

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 負担金	362,000	362,000	0	18 団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	岐阜県・富山県
3 繰入金	0	0	0	
4 繰越金	1,131,095	1,253,713	△122,618	前年度繰越金
5 雑 入	100	100	0	預金利息
計	2,093,195	2,215,813	△122,618	

支出の部

(単位：円)

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	150,000	0	総会、幹事会経費等
2 事業費	1,773,195	1,895,813	△122,618	利用実態調査経費及び 広報・啓発事業経費等
3 事務費	50,000	50,000	0	総会書面資料送付用切手代等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立金
6 予備費	10,000	10,000	0	
計	2,093,195	2,215,813	△122,618	

90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	5年度積立額 (b)	5年度末残高 (a)+(b)
800,000	100,000	900,000

令和5年度負担金内訳

(単位：円)

団体名	負担金額	団体名	負担金額
愛知県	28,000	七宗町	6,000
岐阜県	57,000	白川町	6,000
岐阜市	28,000	飛騨市	28,000
高山市	28,000	岐阜商工会議所	6,000
美濃加茂市	16,000	高山商工会議所	6,000
各務原市	16,000	下呂温泉観光協会	6,000
下呂市	28,000	富山県	57,000
坂祝町	6,000	富山市	28,000
川辺町	6,000	富山商工会議所	6,000
		合計	362,000

団体名	特別負担金額
富山県	300,000
岐阜県	300,000
計	600,000

決 議 (案)

高山本線は、我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

これからも高山本線の存在は、太平洋側から日本海側に至る個性豊かな日本の中央部における広域交流圏を形成するうえで必要不可欠であり、沿線地域の産業、文化、生活等の諸機能の整備とあいまって、中部圏の活性化に大きく貢献するものと確信する。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野ー金沢間が開業し、首都圏と北陸との時間距離が飛躍的に短縮され、さらに、今年度末には北陸新幹線の敦賀延伸、令和9年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が予定されており、今後も地域間の交流・連携が一層図られることが期待される。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだインバウンドも回復傾向にある。高山本線は沿線に多くの観光地を有し、車窓風景も美しい「観光路線」であり、政府が訪日外国人旅行者数を令和12年に6000万人とする目標を掲げ、強力に推し進めている中、国内外の感染症の状況を十分に見極めつつ、国の官民一体型の観光需要の喚起を図る施策を展開する上で、その重要性はますます高まっている。

このような中、JR東海及びJR西日本においては、今後も、より一層の安全対策、安全運行を確保されることはもとより、北陸新幹線の延伸やリニア中央新幹線の開業を契機とした新たな交流人口の拡大と広域観光の推進を図るため、高山本線の一層の利便性の向上に努められることが強く望まれるところである。

よって、我々は、高山本線の強化促進に向けて、次の事項について一致協力して、強力な運動を展開するものとする。

- (1) 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。
 - ・特急「ひだ」の増発
 - ・北陸新幹線との乗り継ぎの利便性を確保するダイヤ改正
 - ・北陸新幹線と特急「ひだ」の乗り換えの際の特急料金の割引の適用
 - ・観光シーズンに併せた臨時列車の運行拡大
 - ・富山ー高山間における観光列車の季節運行
 - ・利用実態のデータ共有
 - ・電化及び複線化の促進
 - ・部分線増、一線スルー化、分岐器の改良等によるスピードアップ
 - ・新型特急車両（HC85系）のPR等
- (2) 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し事故防止に努めること。
 - ・危険箇所の保守点検や保安設備の強化等の積極的な推進
 - ・災害や事故発生時における機能的な連絡体制の構築
- (3) 安全で快適に利用できるようにするため、駅施設における利用者の利便性の向上・確保に取り組むとともに、鉄道施設や車両等の改善を推進すること。
 - ・鉄道施設及び車両等のバリアフリー化の推進

- ・交通系 I Cカードの利用可能エリアの拡大やM a a Sアプリの活用によるキャッシュレス決済への対応の加速化

以上決議する。

令和5年9月6日

高山本線強化促進同盟会